

専教寺報

題字 大橋曾水



浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL. 0866-82-0488

URL. <https://www.senkyoji.com/>E-Mail. senkyoji@senkyoji.com

往生によせて 住職 釋 龍生

昨年の十一月、私の父であり専教寺の前住職が、仏さまとしての新たな命をいただくべく、阿弥陀さまのお淨土へ参った。数え八十七歳の今生の歩みであった。

前住職との思い出と言えば、浄土真宗の僧侶としての私が今ここに存在する上での、ターンングポイントとなる印象深い思い出がある。私は十代の頃、お寺

に生まれたことを嫌つていた。お寺を継ぐことにも強い抵抗を抱いていた。寺族の子息であれば、思春期や青年期を迎えるにあたり、がいるのではないだろうか。そして二十代前半の頃、一時ではあるが自らの意思でお寺を離れて生活していた。しかし若く稚拙な考え方で、永続的に身を立てていけるほど社会は甘くはなかつた。振り返れば、当時の生活の何から何まで若気の至りであつた。その全てがおままごとの延長と氣づいた時、それまで身

を置いていた環境から逃げ出すべく、衝動的に西親に電話をかけた。晩年は、同居する親子という関係もあって、積極的に会話をすると

に生まれたことを嫌つていた。「僧侶になりたい、お寺を継ぎたい」といって、両親からすれば、「自分の考え方で勝手にお寺を飛び出して、今さら何をわがままな」と叱責してもおかしくない状況である。お寺に戻り、幼くもこれまでの人生を振り返りながら、言い訳がましいわがまま息子の身勝手な言葉を、父は叱責するでもなく最後まで口を挟まずに聞いてくれた。それどころか私の言葉や人生そのものを黙つて受け止めて、ある意味背負ってくれたのである。

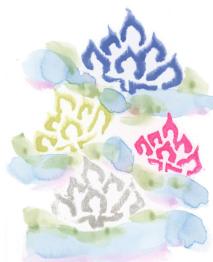
いうことは少なくなつてはいた。しかしながら人生を歩む中で、浄土真宗の僧侶として、また浄土真宗のみ教えを仰ぐものは、ひとえに父・両親の導き無くしてはあり得ない。そしてそのことは未だに住職として、至らない日々を右往左往しながら積み重ねていく中で、どんな状況にあろうと、何をしていようと、心の片隅を一時も離れることはない。

「歎異抄」の第五条に、ただ自力をすべて急ぎ淨土のさとりを開きなば、六道四生のあいだ、いざれの業苦に沈めりとも、神通方便をもつてまず有縁を度すべきなりという言葉がある。この言葉は、自力にとらわれた心を捨て、速やかに浄土に往生してさとりを開いたなら、迷いの世界にさまざまな生を受け、どのような苦しみの中にあらうとも、自由自在で不可思議なはたらきにより、何よりもまず縁のある人々を救うことができる、といふ意味である。父は今、阿弥陀さまのお浄土で、家族や身内はもとより、生前ご縁を結んでくださった多くの方々に寄り添つて、お念佛が身に沁み入るよう、微笑みながら見守ってくれている。私も今生の縁が尽きれば、必ず阿弥陀さまのお浄土へ参らせていただく。そのまで、救いのはたらきという温もりを、南無阿

て、届け続けるその手の中で、二心なくお念佛をいただきながら、ただただこの身を委ねていてたい。遠い日に、父と遊んだ思い出を大切にしながら。



挿絵 内村 寿美子



仏教讃歌

毎月第2火曜日 午後1時30分～（変更あり）

講師：奥野 純子（ソプラノ）

ご近所の門信徒を誘って、ぜひご参加ください。

お待ちしております。



坊
守

佐々木ひろみ

昨年は大変お世話になりました
本年もよろしくお願ひ

いたします
いたします

昨年は、専教寺にとつて大きなことがあります。十一月十四日、前住職であります専法院釋龍範（佐々木文麿）がお浄土へ往生しました。これまでいろいろと体調を崩すことはあります。が、一年半ほど前に入院してからも、何度も肺炎を起こしていました。そのたびに、病院で手厚く治療していただきたいおかげで、もち直しましたので、家族も「八十七歳という年齢で、よく頑張つ

たね」と話しています。寂しくなりましたが、これからも残された家族は、お互に手を取り合って、力を合わせていこうと思います。

これまで、皆様には、前住職が大変お世話になりました。ありがとうございます。この場を借りて、これまでのご恩にお礼申し上げます。

昨年の十一月には、親族のみの密葬をおつとめしました。二月二日には、門信徒葬を予定しております。ご都合がつかれましたら、お参りいただけるとありがたいです。



専法院 釋 龍範

第十三世住職 佐々木文麿 儀

本葬 門信徒葬



令和八年二月二日（月）午前十一時より

於 専教寺 本堂



一乘山 専教寺

旧年中はお世話になりました

本年もどうぞよろしくお願ひいたします

一乘山 専教寺
総代 仏婦役員一同

専教寺伝言板



除夜会

12月31日（水）午後11時45分～

元旦会

1月1日（木）午前零時45分～

今年より除夜会終了後、深夜になります

仏教讃歌（毎月第2火曜日）※日時変更あり

1月13日（火）午後1時30分～

前往職 本葬・門信徒葬

2月2日（月）午前11時～於 専教寺本堂

永代経法要

4月26日（日）時刻未定

決まり次第、お知らせいたします



菊：楳崎 裕志・恭子

毎年きれいな菊をありがとうございます